

福津市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書

(平成29年度事業)

平成31年 3月

福津市教育委員会

この報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成29年度の教育委員会の事務、主に福津市教育ドリームプランに関して点検及び評価を行ったものです。

また、点検及び評価にあたっては、外部有識者の意見を取り入れ、事業の項目ごとに4段階の評点を明示しています。

今後、さらに点検及び評価のあり方の工夫に努め、これからの教育行政に反映させるとともに、継続的に事務事業の改善を図ります。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規程により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、全校の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

1 福津市教育委員会の事務に関する点検・評価について	・ ・ ・ 3
1) 趣旨	
2) 点検及び評価の対象	
3) 実施方法について	
4) 報告書の作成	
2 教育委員会の活動状況	・ ・ ・ 5
1) 総合教育会議の開催及び運営状況	
2) 教育委員会会議の開催状況	
3) 教育委員会の権限に属する事務の審議状況	
3 事務事業の取組状況と点検及び評価	・ ・ ・ 8
・ 各施策の取組状況	
◇コミュニティ・スクールの充実・深化	
◇学校運営体制の支援と学力向上の推進	・ ・ ・ 9
◇教育環境の整備	・ ・ ・ 10
◇生涯学習の充実、地域・家庭の教育力向上	・ ・ ・ 12
◇子どもの体験活動の充実	・ ・ ・ 13
◇スポーツ文化芸術活動の充実	・ ・ ・ 14
・ 平成29年度 重点事業シート	・ ・ ・ 15
4 点検・評価に対する学識経験者からの意見	・ ・ ・ 50

1 福津市教育委員会の事務に関する点検・評価について

1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が平成20年4月1日改正施行され、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することと規定されました。

どのような点検・評価項目を設けるか、また、報告書の様式、議会への報告の方法などについては、各教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

福津市では、以下に掲げる項目について点検及び評価を行い、本報告書を作成しています。

2) 点検及び評価の対象

教育委員会会議の開催及び運営状況、その権限に属する事務の審議状況、また、教育長及び教育委員会事務局職員に委任された事務について、点検及び評価を行います。

3) 実施方法について

点検及び評価にあたっては、教育委員会会議の開催状況や事務事業の進捗状況等を総括するとともに、今後の施策の方向性を整理し点検及び評価を行います。また、点検及び評価については、学識経験を有する者の意見を聴取します。

①自己評価は事業ごとに下記の要領で行います。

◎：明示した目標を十分達成できた

○：期待どおりの成果を得られ、概ね達成できた

△：一定の成果を得られたが、不十分である

×：事業を実施できなかった

②上記①により実施した自己評価等を踏まえた学識経験者の意見を聴取します。

③点検及び評価の結果をとりまとめ報告書を作成し、本市のホームページへも掲載します。点検及び評価の結果を踏まえ、次年度以降の教育行政に反映させます。

4) 報告書の作成

①教育行政の点検及び評価の趣旨や方法等の概要について記載します。

- ②教育委員会会議の開催及び運営状況、その権限に属する事務の審議状況や、教育委員会会議以外の活動状況について、取りまとめて記載します。
- ③教育委員会の主要施策及び事務事業を項目ごとにまとめ、教育委員会としての自己評価を記載します。
- ④外部の学識経験者に、自己点検・評価の内容・方法等にご意見を賜り、次年度以降の教育行政の事務事業の計画・実施に反映させます。

2 教育委員会の活動状況

1) 総合教育会議の開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成27（2015）年4月1日施行）により、教育委員会制度が改正され、市長と教育委員会との連携の強化を図るため、市長及び教育委員会により構成する「総合教育会議」が創設されました。

原則として毎年3回の会議を行っています。

開催日	議決事項
7月25日	福津市教育大綱の策定に向けて（意見交換）
10月24日	福津市教育大綱（案）について
1月18日	福津市教育大綱の基本目標より ①国際交流・グローバル人材の育成について ②環境保全を進めるための人材育成について

2) 教育委員会会議の開催及び運営状況

教育委員会会議は、原則毎月1回の定例会を開催しています。また、必要が生じた際に臨時会を行っています。

平成29年度は定例会12回、臨時会2回の教育委員会会議を開催し、計40件の議案が審議されました。また、議案のほかに協議事項、報告事項に分類し、議論や事務局との意見交換・情報共有化を行いました。

3) 教育委員会の権限に属する事務の審議状況

○審議案件（40件）

教育委員会会議開催日および審議状況

開催日	議決事項
4月26日	福津市ふるさと学習検討委員会設置規程を制定することについて
	福津市公民館図書室利用規定を廃止することについて
	福津市中央公民館長規則を制定することについて
	福津市郷育推進会議委員の委嘱について
	学校運営協議会委員の任命について
5月25日	福津市学校運営協議会規則の一部を改正することについて
	福津市就学指導委員会委員の委嘱について
6月30日	平成29年度全国学力・学習状況調査の市町村別結果の公表に対する同意について
	福津市教育委員会事務局の組織に関する規則を改正することについて

	福津市図書館協議会委員の委嘱について
7月18日	福津市公民館運営審議会委員の委嘱について
8月1日	第3地区小学校用教科用図書（道徳）の採択について
8月24日	福津市立学校の通学区域に関する規則を改正することについて
	福津市就学援助規則施行規程を改正することについて
	非常勤職員（地域活動指導員）を任用することについて
	福津市体育施設条例施行規則を改正することについて
	福津市スポーツ推進審議会会議規則を制定することについて
9月26日	福津市教育委員会事務局の組織に関する規則等を改正することについて
	福津市立学校職員衛生管理規程を制定することについて
	福津市就学援助規則を改正することについて
	福津市就学援助規則施行規程を改正することについて
10月24日	福津市立学校の通学区域に関する規則を改正することについて
	非常勤職員（特別支援教育支援員）を任用することについて
11月22日	福津市立学校衛生推進者の選任等に関する規程を廃止することについて
	福津市複合文化センター条例施行規則を改正することについて
	福津市立図書館条例施行規則を改正することについて
	福津市いじめ問題対策連絡協議会委員及び福津市いじめ防止対策審議会委員の委嘱について
12月21日	福津市就学援助規則施行規程を改正することについて
1月18日	小規模校入学特別認可制度に伴う認定について
2月20日	福津市公民館条例施行規則及び福津市複合文化センター条例施行規則の一部を改正することについて
	福津市全国大会等出場奨励金交付要綱を制定することについて
3月22日	福津市資料参考調査嘱託員規則を改正することについて
	福津市教育評価委員の設置等に関する規則を制定することについて
	福津市立小中学校管理規則を改正することについて
	福津市立幼稚園条例施行規則を改正することについて
	福津市立就学指導委員会規則を改正することについて
	福津教育委員会事務局の組織に関する規則を改正することについて
	福津市教育懇話会規則を改正することについて
	福津市就学援助規則施行規程を改正することについて
	非常勤職員を任用することについて

○協議案件（2件）

開催日	議決事項
4月26日	平成30年度使用小学校教科用図書採択に係る教科用図書第3地区採択協議会委員の推薦について
1月18日	平成30年度福岡教育事務所管内教科用図書調査研究協議会委員の推薦について

3 事務事業の取組状況と点検及び評価

福津市教育委員会では、毎年、福津市教育ドリームプランを定め、「夢や希望を持ち、健やかに育つ子ども」の育成をめざし、「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域」を基本理念としながら教育行政を総合的に進めています。

本市のコミュニティ・スクールでは、子どもがこれからの時代を生き抜いていくために必要な力を身に付けさせ、将来子どもたちが生きる地域の担い手を育てていきたいと考えています。その中で郷土愛を育み、循環型の地域社会づくりを目指しています。

◇コミュニティ・スクールの充実・深化

CS全校導入7年目を迎え、学校・家庭・地域が連携・共働し、社会総がかりで教育が進められるよう様々な取組を行いました。

1) 特色ある教育活動推進事業の実施「ふるさと福津」

子どもたちの「ふるさと福津」への郷土愛を育み、地域への想いと願いをつなぐ将来の担い手を育てるために、特色ある教育活動の充実に向けてふるさと学習を支援することを目的として本事業を実施しました。

○福津市ふるさと学習検討委員会の開催

○共通ふるさと学習テーマ、ブロック別学習テーマ検討

○「ふるさと福津」副読本、指導者用指導案集の作成

2) 地域との関わりを大切にした土曜日授業の実施

コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域が連携・共働した教育活動を一層推進させること、また教育課程を弾力的に運用させること等の観点から小・中学校では年5回の土曜日授業を実施しました。

3) コミュニティ・スクールフォーラムの開催

学校運営協議会の活性化に向けて学校運営協議会委員の資質向上と学校運営協議会の運営改善を目的として保護者や地域住民、行政等が参加し、コミュニティ・スクールの推進や地域で育てる子どもたちについて、互いに語り合う「福津市コミュニティ・スクールフォーラム」を開催しました。

4) 中学校ブロックにおけるコミュニティ・スクール研究発表会の開催

コミュニティ・スクールを基盤とした教育活動の充実を図るために、中学校ブロックにおけるコミュニティ・スクールの取組や研究について教職員・保護者・地域住民等へ公開をする「コミュニティ・スクール研究発表会」を開催しました。

◇学校運営体制の支援と学力向上の推進

I 学校運営改善の支援

5) 中学校ブロックの連携の視点からの管理職研修会等の実施

管理職等研修会においては、小小連携、小中連携を図り、教育課題の解決に向けて研修を進めました。子どもたちの9年間の学びや育ちを支えるために、地域の力を学校運営へ注ぎ込むことができるよう、中学校ブロックごとに校長と地域代表者との意見交換を通して学校と地域の連携・共働の推進を図りました。

6) 学校・家庭・地域の結びつきを強める学校評価の充実

本市の学校評価方針に基づき、学校が保護者や地域住民と目標(子ども像)を共有し、地域の人々と一体となって子どもたちを育てていくために、各学校において実効性のある学校評価(自己評価、学校関係者評価)となる研修を行いました。

学校・家庭・地域をつなぐ小中連携ができるよう、中学校ブロック合同学校運営協議会やCS報告会を開催し、目指す子ども像等についての説明やその検証を行い、学校運営の改善に向けての協議の場を位置づけました。

II 学力向上検証・改善と授業力の向上

7) 学力向上の取組の指導・支援

1. 福津市学力向上推進会議の設置

平成25年度に策定した「福津市学力向上スタンダード」を機能させるために、教頭研修会の場を「福津市学力向上推進会議」として位置づけ、福津市学力向上スタンダードの定着状況の共有および改善案の検討を行いました。

2. 福津市小・中学校統一学力テストの実施

小・中学校において、基礎基本および活用力の定着状況を把握し、授業改善に活かすために福津市立小・中学校全児童生徒を対象とした福津市統一学力テストを実施しました。

小学校：平成30年1月11日～17日

中学校：平成29年4月13日

3. 学級集団アセスメント事業(QUテスト)の実施

学級担任および教科担任等が学級集団の状況や児童・生徒の課題等を客観的に分析し、学級集団の改善策や個別の支援策を検討し、実践・検証を行うことを目的にQUテストを実施しました。このテストが各学校において効果的に実施・活用されるように、福津市QU活用推進計画のもと、校内QU研修を実施しました。また、QU活用担当者研修

会を開催しました。

8) 各種研修会の実施

1. 管理職等研修会の実施

管理職をはじめ、主幹教諭・教務主任などの管理職を支える教職員が教育内容の質的向上を図るために学び合う場を設け、平成29年度はコミュニティ・スクールの充実および学力向上を促進する研修会を以下のように実施しました。

(1) 主にコミュニティ・スクールの充実に係ること

- ・地域の代表者を交えた熟議の場を設定した研修
- ・学校運営協議会委員・校長・教頭による学校運営の成果や課題を説明する「コミュニティ・スクール報告会」の開催

(2) 主に学力向上の推進に係ること

- ・各校における福津市スタンダードの取り組み状況を把握するため学校を会場とする教頭研修会、教務主任等研修会の開催
- ・中学校区における学力向上の効果ある取組の共有

2. 各種研修会・協議会の実施

教職員のキャリア・ステージに応じた授業改善や新学習指導要領の方向性を踏まえた研修を実施しました。いじめ・不登校支援、特別支援教育、人権・同和教育、情報教育等の担当者及び栄養教諭・学校栄養職員等に対して、推進体制の整え方や指導計画のつくり方、指導支援の在り方などについて研修を行いました。また、平成29年度はふるさと学習研修会や、英語教育担当者研修会を実施しました。

9) 定期学校・園訪問の実施

校長、園長がめざす子どもの姿の実現に向けて、教育内容や学校組織等の質的向上を図ることができるように実施しました。

市教育委員会による学校訪問では、各学校は教育活動の状況について以下の内容について必ず説明をするようにしています。

- 学力向上の取組（全国学力・学習状況調査・県学力調査）
- いじめ・不登校の未然防止の取り組み（QUTテストの活用）
- 地域資源の活用による特色ある教育活動カリキュラム

◇教育環境の整備

10) 少人数指導の拡大・充実

学習を進めたり生活していく上で、学校の課題や状況に応じた、きめ細かな指導を充実させるため、小学2年生の35人学級制や少人数教育のための市非常勤講師を配置し

ました。

1 1) 施設・設備の維持管理

学校・園内外の施設・設備を維持・管理するため、校舎増築、校舎・園舎、プール等施設の改修を実施しました。また、各学校や園において必要な教材・教具や消耗品、備品、図書等の購入にかかる費用を確保し、定期的な安全点検や管理を徹底しました。

1 2) 指導員・支援員等の配置

学校や園に行きたくても行けない子どもや、通常学級における一斉指導等の場面において学習を進めることが困難な子どもに対して、個別の支援を充実させるために、以下のように指導員等を配置したり、派遣したりして指導支援を進めました。

○教育指導員の配置

子どもや保護者、教職員の教育相談への対応、及び訪問指導を行う

○福津市適応指導教室指導員の配置

学校に行けない子どもに対しての学習指導や生活指導を行う

○特別支援教育支援員の配置

特別支援教育の充実の観点から学習指導や生活指導の指導支援を行う

○日本語指導ボランティアの派遣

外国籍の児童・生徒が在籍する小・中学校を対象に指導支援を行う

○SC、SSWの配置

いじめや不登校等の問題に対する支援を行う

○ICT支援員の配置

パソコン、情報機器等の整備、捜査支援を行う

1 3) 小規模校入学特別認可制度の実施

勝浦小学校の児童数を確保し、勝浦地区の自然や伝統文化を活かした地域ぐるみによる勝浦小学校の教育を未来につなげていくために、校区外に住んでいても勝浦小学校に通学できる「小規模校入学特別認可制度」を継続して実施しました。

1 4) 就学・園援助・奨励の実施

家庭、その他のさまざまな事情、状況によって就学が困難な家庭や、市立幼稚園に就学する保護者や設置者に対して、次のような援助や奨励に必要な予算の確保に努めました。

○要保護・準要保護児童生徒就学援助

保護者の申請に基づき、教育に係る費用の一部を援助する。

○特別支援教育就学奨励

子どもが特別支援学級に在籍する家庭に対して、保護者の申請に基づき教育に係る費用の一部を援助する。

○私立幼稚園就園奨励

市立幼稚園に在籍する家庭に対して、保育に係る費用の一部を援助する。

◇生涯学習の充実、地域・家庭の教育力向上

15) 郷育カレッジと学校との連携

子どもたちの学習体験の場を広げることを目的として、またコミュニティ・スクールと地域の連携を深めるため、地域の「ひと・もの・こと」を生かして講座を実施している郷育カレッジの講師を体験活動の講師として紹介しました。また、児童生徒と郷育カレッジ受講生（地域の皆さん）が触れ合える郷育カレッジの講座を各学校で実施するため、福間東中学校（EJC）と津屋崎中学校（GIT）に郷育カレッジの講師を派遣しました。さらに郷育カレッジ公開講座として、市内3中学校による合同演奏会を実施しました。

16) 地域の教育力向上の支援

○青少年育成市民の会の実施

次代を担う青少年の健全育成や彼らを取り巻く環境浄化を市民全員で取り組むため、市内の十数の市民活動団体の参画をいただきながら当会の目的達成のため、様々な意見・情報の交換会を開催しました。

○各小学校区モデル子ども会情報交換会の開催

毎年、小学校区ごとに単位子ども会を1団体指定し、地域の子ども会の模範となる活動を企画・立案・実施してもらうための情報交換会を開催しました。

○みまもり活動の充実（青少年指導委員会との連携）

小・中学生の登下校時の安全確保や不審者対策としての地域パトロール活動を青少年指導委員会と連携・協力しながら実施しました。

○成人式及び実行委員会の支援

新成人の門出を祝し、今後の活躍を期待して新成人で組織される実行委員会で企画・立案・運営される「成人式」の開催を支援しました。

17) 家庭の教育力向上の支援

○PTA研修会等の支援

市内10校の小・中学校PTAが家庭の教育力向上のために開催される各種研修会に対して、青少年育成市民の会を通じて、補助金を交付しました。

○早寝・早起き・朝ごはん活動等の推進

子どもたちの生活リズム向上のため、市内の保育園児・幼稚園児・小学生を対象に「早寝・早起き・朝ごはん運動」や「ノーテレビ・ノーゲームチャレンジ活動」を推進しました。

◇子どもの体験活動の充実

18) 松本市との小学生交流事業の実施

福津市・宗像市と長野県松本市の小学生が交流し、文化・環境・生活習慣の異なる地域の子どもたちと共に生活を通して、子どもたちの健全育成（意欲・規範意識・自尊感情・体力等の向上）を図り、ふるさと福津・宗像を見つめなおし、幅広く柔軟な考えを持った次世代層を育てると共に、生きた都市間交流をすることを目的として実施しました。

事前研修では、福津・宗像のふるさと学習及び集団活動の研修、本研修では松本市の雪山体験や松本市の子どもたちとの交流活動、事後研修では「青年のつどい」で研修報告を行い、子どもたちの主体性を育てました。

19) 通学合宿の支援

子どもたちの基礎的な生活習慣の定着や自主性・協調性・自尊感情の高揚を目的に地域通学合宿事業を支援しました。通学合宿中、子どもたちは地域の公民館で寝食をともにしながら、小学校に通います。

20) アンビシャス広場の支援

児童の放課後、休日、祝日における安心・安全を確保するとともに、子どもの居場所づくりと年齢に応じた様々な体験をする機会を提供するため、地域全体で子どもを見守るアンビシャス広場の環境づくりを支援しました。また、アンビシャス広場未開設の地域に開設を働きかけます。

21) 青少年のつどいの開催

市民の模範となる善行や青少年の健全育成に長年貢献された市民をはじめ、文化・芸術・スポーツなどの分野で顕著な活躍をした青少年を対象とした「全校者表彰・特別表彰」の式典を毎年2月に「青少年のつどい」として開催しました。

22) 青少年育成団体の支援

○子ども会、子ども会育成会連合会への支援

市内に約60組織されている子ども会の活動に対し、市子ども会育成会連合会を通して、財政面はもちろん、アドバイスなどの人的な部分も含めて支援しました。特に、子ども主体の子ども会活動の実現に向けてジュニア・リーダーなどの人材育成に力を注ぎました。

○少年の翼の支援

宗像地域の小・中学生を対象とした「宗像少年の翼」の県外研修に対し、宗像市と協力して財政的支援を行いました。

◇スポーツ文化芸術活動の充実

23) 市民スポーツ活動の充実

スポーツ事業に参加・体験することで体力向上、生涯スポーツ推進のきっかけとなり、またボランティアとしての運営に協力・参加することで地域との交流にも繋がりました。

○新体カテストの支援

スポーツ推進委員が小学校で行う体力測定への支援

○成人祝賀駅伝の開催

地域や学校から選手やボランティアとして参加することにより、地域・異年齢間での市民交流を促進

○海洋スポーツ体験活動の実施

カヤックやヨットなどの海洋スポーツ体験をはじめ海を取り巻く環境問題、宗像地域の海と人との歴史的なつながりなどを学習することで、郷土への誇りや共生することの大切さを体感させる

○チャレンジランキング in ふくつの実施

スポーツ推進委員と中学生ボランティアの協力により、市民・小学生の体力測定を実施

24) 文化芸術活動の充実

文化芸術活動の充実に向けて、以下の事業を支援し実施しました。

○伝統文化継承活動の支援

○市内3中学校吹奏楽部合同演奏会の開催

○図書館・読書活動の充実

○本物の芸術を鑑賞する機会の充実

○世界遺産・文化財に係る情報発信

平成29年度 重点事業シート

1) 2) 3) 4)

事業名	コミュニティ・スクール推進事業費（学校運営協議会事業）	H29 決算	2,863,990 円												
目的等	コミュニティ・スクールを推進する。														
事業内容	○地域住民や保護者等の意見を学校運営に反映させる仕組みとして設置している学校運営協議会の活動を支援することにより、学校と地域住民等が力を合わせて行う学校運営「地域とともにある学校」として特色ある学校づくりを進める。														
成果目標	学校運営協議会の運営を支援する。														
H29年度の成果等	○コミュニティ・スクールの充実・深化を図るため、コミュニティ・スクール研究発表会の開催、コミュニティ・スクールフォーラムの開催、「ふるさと福津」副読本の作成を実施した。														
<div style="text-align: center; background-color: #ff69b4; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 福津市コミュニティ・スクールフォーラム </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>参加者状況</p>  <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>参加者区分</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>行政</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>児童・生徒</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>地域・保護者</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>学校運営協議会委員(校長、教職員、地域、行政含む)</td> <td>64</td> </tr> </tbody> </table> </div>				参加者区分	人数	行政	12	児童・生徒	37	地域・保護者	15	教職員	92	学校運営協議会委員(校長、教職員、地域、行政含む)	64
参加者区分	人数														
行政	12														
児童・生徒	37														
地域・保護者	15														
教職員	92														
学校運営協議会委員(校長、教職員、地域、行政含む)	64														
特色ある教育活動推進事業『ふるさと福津』学習副読本															
<p>『ふるさと福津』学習副読本 作成委員会（年間4回開催）</p> <p>【メンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学識者 福岡教育大学附属福岡小学校長 ○各学校主幹教諭 ○指導主事 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>															

	<table border="1"> <tr> <td>共通カリキュラム 小6年</td> <td>社会科</td> <td>「伝えよう！宗像・福津の世界遺産」</td> </tr> <tr> <td>共通カリキュラム 中1年</td> <td>総合的な学習の時間</td> <td>「福津の環境保全活動を調べよう」</td> </tr> <tr> <td>共通カリキュラム 中2年</td> <td>道徳</td> <td>「津屋崎千軒の街並み」</td> </tr> <tr> <td>共通カリキュラム 中3年</td> <td>社会科（公民）</td> <td>「日本の社会保障制度と福津の定礼」</td> </tr> </table>	共通カリキュラム 小6年	社会科	「伝えよう！宗像・福津の世界遺産」	共通カリキュラム 中1年	総合的な学習の時間	「福津の環境保全活動を調べよう」	共通カリキュラム 中2年	道徳	「津屋崎千軒の街並み」	共通カリキュラム 中3年	社会科（公民）	「日本の社会保障制度と福津の定礼」
共通カリキュラム 小6年	社会科	「伝えよう！宗像・福津の世界遺産」											
共通カリキュラム 中1年	総合的な学習の時間	「福津の環境保全活動を調べよう」											
共通カリキュラム 中2年	道徳	「津屋崎千軒の街並み」											
共通カリキュラム 中3年	社会科（公民）	「日本の社会保障制度と福津の定礼」											
今後の方向性等	<p>○コミュニティ・スクール全校導入から7年目の充実期を迎え、熟議と共働の充実を図ってきた。中学校ブロックでの9年間の子どもの育ちや、目標像を通して小中連携を図り、地域全体で子どもたちを支える仕組みが確立されつつあり、今後はこれをさらに発展させていく必要がある。</p> <p>○コミュニティ・スクール発展期である「学校を核とした地域づくり」を推進するために、地域学校協働本部の構築に向けた調査研究を進める。</p>												
評価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	◎											
各小中学校に設置されている学校運営協議会を通して、地域住民等との連携・共働による学校運営により特色ある学校づくりが推進された。													

平成29年度 重点事業シート

10)

事業名	少人数学級設置事業費（少人数学級設置事業）	H29 決算	11,690,945 円															
目的等	児童生徒の個に応じたきめ細やかな支援を行うことで、児童生徒がより安定した学校生活を送れるようにする。																	
事業内容	○少人数学級、チームティーチング、習熟度別少人数指導など学校の課題や状況等に応じてきめ細やかな指導を行うことができるよう支援教員（非常勤講師）を配置する。																	
成果目標	少人数教育支援員を各学校に配置する。																	
H29年度の成果等	<p>○支援教員が配置された学校では、課題別学習や習熟度別学習による少人数指導、チームティーチング指導、教育的支援が必要な児童生徒に対する学習指導、生徒指導など個に応じたきめ細やかな支援を行うことができた。</p> <p>○平成28年度、平成29年度の配置校は、神興小学校、福間南小学校、津屋崎小学校、福間中学校、福間東中学校、津屋崎中学校の6校であった。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="3">少人数教育支援教員の配置状況</th> </tr> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table>			少人数教育支援教員の配置状況				28年度	29年度	小学校	3人	3人	中学校	3人	3人	合計	6人	6人
少人数教育支援教員の配置状況																		
	28年度	29年度																
小学校	3人	3人																
中学校	3人	3人																
合計	6人	6人																
今後の方向性等	<p>○1学級35人以下の学級編成を行うために必要な講師の確保が厳しい状況に鑑みて、学力向上や教育の質を高める少人数教育の推進において、少人数学級編成のみならず、チームティーチング、習熟度別少人数指導など学校の課題や状況等に応じてきめ細やかな指導を行うことができるよう、学校サポート体制を充実させる必要がある。</p> <p>○学校の課題や状況等に応じた課題解決に必要な少人数教育の方法を選択できる仕組みとして、各小中学校に少人数教育支援員を配置する。</p>																	
評価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	△																
小学校において全校設置が達成できなかった。																		

平成29年度 重点事業シート

11)

事業名	小学校校舎施設整備事業費 (小学校施設大規模改造事業)	H29 決算	370,786,318 円
目的等	学校施設の整備(改修、改築)工事等を行うことで、施設の安全性の確保や効率的な施設運用を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○上西郷小学校 上水道接続工事・設計他 ○福間小学校 改築工事・監理・物流 ○津屋崎小学校 プール濾過機更新、登棒更新 ◇体育館天井等点検(神興、福間南、勝浦) 		
成果目標	小学校施設の老朽化、児童の急増に対して、安全・安心の確保と教室数の確保に取り組む。		
H29年度の成果等	<ul style="list-style-type: none"> ○福間小学校において改築工事の契約締結後工事に着手した。工事中は賃借料として仮設校舎(児童は夏休みに仮設校舎へ引っ越し、物流業務を実施)を設け、委託料として設計管理を実施し平成30年12月竣工にむけ工事を進めていく。 ○上西郷小学校においては井戸水を使用していたが、上水道本管が通ったため、委託料として設計業務と、引き込み工事を実施した。 津屋崎小学校においては、老朽化が著しいプール濾過機、及びのぼり棒の取り換え工事を実施した。 ○また、災害時には避難所にもなる、神小、南小、勝小の体育館天井等の点検調査業務を実施した。 		
今後の方向性等	<ul style="list-style-type: none"> ○福間小、福間南小、津屋崎小においては児童が急増しており教室の確保が課題となっている。また建築年数が古い施設が多く、老朽化に伴う改修工事が必要となっている。 ○急激な児童増や、施設の老朽化に対し、安全性の確保や快適な教育環境を整備していくために、教育部内をはじめとした庁内の連携を密にして、人口推計に基づく計画的な改修計画が求められる。 		
評価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	◎	
福間小改築工事では継続して事業を進めている。他の工事においても計画的におこなった。			

平成29年度 重点事業シート

11)

事業名	小学校給食施設整備事業費 (小学校給食施設整備事業)	H29 決算	4,401,194 円	
目的等	安定した給食提供を実施する環境を整える。			
事業内容	○福間南小、福間小の学級数増加に伴う、小学校給食用消耗品(トレイ、箸、スプーン等)、備品(食器消毒保管機、学級運搬車等)の給食環境整備。福間小児童数の増加に伴う給食室の配置見直し設計委託。			
成果目標	安心安全な給食を安定的に提供する。			
H29年度の成果等	○福間小学校、福間南小学校の児童数増加に伴い、厨房具を新たに購入するなどし、給食提供の環境を整えた。			
	給食実施数(職員等含む)		(毎年5月1日)	
	学校名	27年度	28年度	29年度
	福間小	657	700	795
	福間南小	816	1,060	1,195
	神興小	307	311	310
	神興東小	603	582	549
	上西郷小	136	145	151
	津屋崎小	785	817	847
	勝浦小	85	94	101
	合計	3,389	3,709	3,948
今後の方向性等	○給食調理の現場においては、限られた時間内で「学校給食衛生管理の基準」に沿った安全性が確保された安心な給食を提供する必要がある。 ○児童数の増加に比例する給食実施数の増加に伴い、厨房機器等の配置見直しが必要となる。 ○各学校配置の栄養教諭等と連携し、厨房機器の耐用年数や使用状態などを確認した上で、児童数の増加に対応できるよう現場の状況に適した厨房機器の入れ替えを計画的に行う。			
評価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	○		
児童数、学級数の増加に伴う対応を行った。				

平成29年度 重点事業シート

11)

事業名	小学校学習環境整備事業費 (小学校学習環境整備事業)	H29 決算	16,661,218 円																																																		
目的等	学習備品を整備することで、児童の適正な学習環境を確保する。																																																				
事業内容	○教育環境を整備、充実させる。福間南小、津屋崎小、福間小の児童数及び学級数増加に伴う、小学校備品の整備。																																																				
成果目標	不足する机、いす等の学校備品を購入し学習環境を整える。																																																				
H29年度の成果等	<p>○児童数及び学級数が増加している福間小学校、福間南小学校、津屋崎小学校に、不足する机、いす等の学校備品を購入し学習環境を整備した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">児童数(5月1日現在)の推移</th> </tr> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>神興小学校</td> <td>(7) 274</td> <td>(9) 279</td> <td>(11) 277</td> <td>(10) 245</td> </tr> <tr> <td>上西郷小学校</td> <td>(1) 119</td> <td></td> <td>(2) 130</td> <td>(2) 134</td> </tr> <tr> <td>福間小学校</td> <td>(8) 616</td> <td>(13) 662</td> <td>(26) 751</td> <td>(29) 868</td> </tr> <tr> <td>神興東小学校</td> <td>(8) 563</td> <td>(10) 542</td> <td>(8) 542</td> <td>(13) 526</td> </tr> <tr> <td>福間南小学校</td> <td>(9) 851</td> <td>(10) 994</td> <td>(18) 1127</td> <td>(26) 1269</td> </tr> <tr> <td>津屋崎小学校</td> <td>(20) 744</td> <td>(27) 775</td> <td>(37) 798</td> <td>(46) 846</td> </tr> <tr> <td>勝浦小学校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>(53) 3240</td> <td>(69) 3458</td> <td>(102) 3712</td> <td>(126) 3971</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ()は特別支援学級児童・生徒数で内数とする。</p>			児童数(5月1日現在)の推移						27年度	28年度	29年度	30年度	神興小学校	(7) 274	(9) 279	(11) 277	(10) 245	上西郷小学校	(1) 119		(2) 130	(2) 134	福間小学校	(8) 616	(13) 662	(26) 751	(29) 868	神興東小学校	(8) 563	(10) 542	(8) 542	(13) 526	福間南小学校	(9) 851	(10) 994	(18) 1127	(26) 1269	津屋崎小学校	(20) 744	(27) 775	(37) 798	(46) 846	勝浦小学校					合 計	(53) 3240	(69) 3458	(102) 3712	(126) 3971
児童数(5月1日現在)の推移																																																					
	27年度	28年度	29年度	30年度																																																	
神興小学校	(7) 274	(9) 279	(11) 277	(10) 245																																																	
上西郷小学校	(1) 119		(2) 130	(2) 134																																																	
福間小学校	(8) 616	(13) 662	(26) 751	(29) 868																																																	
神興東小学校	(8) 563	(10) 542	(8) 542	(13) 526																																																	
福間南小学校	(9) 851	(10) 994	(18) 1127	(26) 1269																																																	
津屋崎小学校	(20) 744	(27) 775	(37) 798	(46) 846																																																	
勝浦小学校																																																					
合 計	(53) 3240	(69) 3458	(102) 3712	(126) 3971																																																	
今後の方向性等	<p>○増加する児童数(見込)による教室確保にあわせ、不足する机やいす等の学校備品を整備する必要がある。</p> <p>○小学校の児童数増加による教室整備にあわせ学習環境整備を進める。</p>																																																				
評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	○																																																				
児童数、学級数の増加に伴う対応を行った。																																																					

平成29年度 重点事業シート

11)

事業名	小学校学習環境整備事業費 (小学校学習環境整備事業)	H29 決算	58,985,280 円
目的等	施設改修を実施することで、児童の適正な学習環境を確保する。		
事業内容	○福間南小学校 リース校舎及び職員室設置・設計監理、運動場拡張 ○福間小学校 管理棟改修工事、サイクル扇設置		
成果目標	小学校施設において快適な学習環境を確保するために改修工事に取り組む。		
H 2 9 年 度 の 成 果 等	○福間南小学校では、児童増に対応したリース校舎の設計・監理、及び運動場の拡張工事を実施した。 ○福間小学校においても児童増に対応できるように職員室の拡張、校長室の移設、教室の確保工事とあわせてサイクル扇設置工事を実施し、児童の快適な学習環境を確保した。		
今後の方 向性等	○福間小、福間南小、津屋崎小においては児童が急増しており教室の確保が課題となっている。また児童の快適な学習環境を確保するために施設改修を実施する必要がある。 ○急激な児童増に対し、快適な教育環境を整備していくために、教育部内をはじめとした庁内の連携を密にして、人口推計や計画的な改修計画が求められる。		
評 価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	◎	
福間南小、福間小とも計画的に事業を進めた。			

平成29年度 重点事業シート

11)

事業名	中学校校舎施設整備事業費 (中学校施設大規模改造事業)	H29 決算	24,851,880 円
目的等	学校施設の整備(改修、改築)工事等を行うことで、施設の安全性の確保や効率的な施設運用を図る。		
事業内容	○福間東中学校 排水設備工事・設計 ○福間中学校 整備基本設計 ◇体育館天井等点検(福間、福間東)		
成果目標	中学校施設の老朽化、生徒の急増に対して、安全・安心の確保と教室数の確保に取り組む。		
H29年度の成果等	○福間東中において浄化槽を撤去し公共下水道へ接続させる設計及び工事を実施した。 ○福間中学校においては教室数確保及び施設の老朽化のための改築工事に向けた基本設計を実施した。 ○また、災害時には避難所にもなる、福間中、福間東中の体育館天井等の点検調査業務を実施した。		
今後の方向性等	○福間中においては生徒が急増しており教室の確保が課題となっている。また建築年数が古い施設が多く、老朽化に伴う改修工事が必要となっている。 ○急激な生徒増や施設の老朽化に対し、安全性の確保や教育環境を整備していくために、教育部内をはじめとした庁内の連携を密にして、人口推計や計画的な改修計画が求められる。		
評価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	◎	
福間中は継続的な事業で、計画通り基本設計が完了した。福間東中も計画的に工事を進めた。			

平成29年度 重点事業シート

11)

事業名	中学校学習環境整備事業費 (中学校学習環境整備事業)	H29 決算	478,440 円
目的等	施設改修を実施することで、児童の適正な学習環境を確保する。		
事業内容	○福間中学校 サイクル扇設置		
成果目標	中学校施設において快適な学習環境を確保するために改修工事に取り組む。		
H29年度の成果等	○福間中学校において、教室増、特別支援学級増に対し学習環境を整備するために、サイクル扇を設置した。		
今後の方向性等	○福間中においては生徒が急増しており教室の確保が課題となっている。また生徒の快適な学習環境を確保するために施設改修を実施する必要がある。 ○急激な生徒増に対し、快適な教育環境を整備していくために、教育部内をはじめとした庁内の連携を密にして、人口推計や計画的な改修計画が求められる。		
評価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施		◎
計画的に工事を進めた。			

平成29年度 重点事業シート

11)

事業名	中学校学習環境整備事業費 (中学校学習環境整備事業)	H29 決算	4,573,451 円	
目的等	○学習備品等を整備することで、生徒の適正な学習環境を確保する。			
事業内容	○教育環境を整備、充実させる。福間中の生徒数及び学級数増加に伴う、中学校備品の整備、福間東中職員室エアコン更新。			
成果目標	不足する机、いす等の学校備品を購入し学習環境を整える。			
H29年度の成果等	○福間中学校の生徒数及び学級数が増加していることに伴い、不足する机、いす等の学校備品を購入し学習環境を整備した。			
	生徒数(5月1日現在)の推移			
		27年度	28年度	29年度
				30年度
	福間中学校	(1) 589	(2) 606	(2) 669
		(8) 702	(5) 494	(15) 376
	福間東中学校	(1) 525	(4) 509	(3) 478
		(5) 365	(5) 364	(10) 383
	津屋崎中学校	(7) 1479	(11) 1479	(15) 1530
		(28) 1572		
	合 計			
	注) ()は特別支援学級児童・生徒数で内数とする。			
今後の方向性等	○増加する生徒数(見込)による教室確保にあわせ、不足する机やいす等の学校備品を整備する必要がある。 ○生徒数増加による教室整備にあわせ学習環境整備を進める。			
評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	○			
児童数、学級数の増加に伴う対応を行った。				

平成29年度 重点事業シート

11)

事業名	中学校給食施設整備事業費 (中学校給食施設整備事業)	H29 決算	3,279,982 円																								
目的等	安定した給食提供を実施する環境を整える。																										
事業内容	○福間中の学級数増加に伴う、中学校給食用消耗品(トレイ、箸、スプーン等)、備品(ガス調整機、学級運搬車、ガス式立体炊飯器等)の給食環境整備。																										
成果目標	安心安全な給食を安定的に提供する。																										
H29年度の成果等	○福間中学校の生徒数増加に伴い、厨房具を新たに購入するなどし、給食提供の環境を整えた。																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">給食実施数(職員等含む)</th> <th colspan="2">(毎年5月1日)</th> </tr> <tr> <th>学校名</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福間中</td> <td>629</td> <td>642</td> <td>710</td> </tr> <tr> <td>福間東中</td> <td>560</td> <td>545</td> <td>504</td> </tr> <tr> <td>津屋崎中</td> <td>387</td> <td>384</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,576</td> <td>1,571</td> <td>1,614</td> </tr> </tbody> </table>			給食実施数(職員等含む)		(毎年5月1日)		学校名	27年度	28年度	29年度	福間中	629	642	710	福間東中	560	545	504	津屋崎中	387	384	400	合計	1,576	1,571	1,614
給食実施数(職員等含む)		(毎年5月1日)																									
学校名	27年度	28年度	29年度																								
福間中	629	642	710																								
福間東中	560	545	504																								
津屋崎中	387	384	400																								
合計	1,576	1,571	1,614																								
今後の方向性等	<p>○給食調理の現場においては、限られた時間内で「学校給食衛生管理の基準」に沿った安全性が確保された安心な給食を提供する必要がある。</p> <p>○福間中学校の生徒数及び学級数の増加に伴う、給食提供の施設整備については、校舎建替計画における給食室整備のほか厨房機器の入れ替えを行う必要がある。</p> <p>○校舎建替計画における給食室が整備されるまでの間においては、厨房機器の耐用年数や使用状態などを確認した上で、生徒数の増加に対応できるよう現場の状況に適した厨房機器の入れ替えを行い、安定的に給食を提供する。</p>																										
評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	○																										
生徒数、学級数の増加に伴う対応を行った。																											

平成29年度 重点事業シート

12)

事業名	教育相談事業費（教育相談事業）	H29 決算	11,891,887 円																												
目的等	児童生徒の不登校やいじめ等の生徒指導上の諸問題の解決を図る。																														
事業内容	○小学校、中学校において教育相談体制の充実及び強化を図るために、教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフを配置し、児童、生徒、教職員、保護者に対して、助言、指導を行い、学校教育活動を支援する。																														
成果目標	専門スタッフを配置（増員）する。																														
H29年度の成果等	いじめ		不登校			児童生徒数																									
	小学校	中学校	小学校	解消 復帰 改善	中学校	解消 復帰 改善	小学校	中学校																							
	H25	4	3	9	(1)	17	(1)	2971	1461																						
	H26	5	7	24	(4)	34	(5)	3098	1465																						
	H27	8	14	31	(9)	42	(9)	3243	1479																						
H28	10	12	28	(12)	42	(19)	3461	1479																							
H29	12	43	19	(11)	62	(26)	3716	1530																							
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th colspan="3">教育相談件数</th> </tr> <tr> <td></td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> </tr> <tr> <td>相談件数</td> <td>282</td> <td>375</td> </tr> </table>								教育相談件数				28年度	29年度	相談件数	282	375															
教育相談件数																															
	28年度	29年度																													
相談件数	282	375																													
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th colspan="6">不登校の解消率(不登校の児童生徒の内、解消・復帰・改善した者の割合) 【%】</th> </tr> <tr> <td></td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>11.1</td> <td>16.7</td> <td>29.0</td> <td>42.9</td> <td>57.9</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>5.9</td> <td>14.7</td> <td>21.4</td> <td>45.2</td> <td>41.9</td> </tr> </table>								不登校の解消率(不登校の児童生徒の内、解消・復帰・改善した者の割合) 【%】							H25	H26	H27	H28	H29	小学校	11.1	16.7	29.0	42.9	57.9	中学校	5.9	14.7	21.4	45.2	41.9
不登校の解消率(不登校の児童生徒の内、解消・復帰・改善した者の割合) 【%】																															
	H25	H26	H27	H28	H29																										
小学校	11.1	16.7	29.0	42.9	57.9																										
中学校	5.9	14.7	21.4	45.2	41.9																										
<p>SC、SSW、家庭児童相談員、発達支援センター、適応指導教室、主任児童委員等関係機関との連携で、解消率が高くなっている。</p>																															
<table border="1" style="display: none;"> <caption>不登校の解消率(不登校の児童生徒の内、解消・復帰・改善した者の割合) 【%】</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>11.1</td> <td>5.9</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>16.7</td> <td>14.7</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>29.0</td> <td>21.4</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>42.9</td> <td>45.2</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>57.9</td> <td>41.9</td> </tr> </tbody> </table>								年度	小学校	中学校	H25	11.1	5.9	H26	16.7	14.7	H27	29.0	21.4	H28	42.9	45.2	H29	57.9	41.9						
年度	小学校	中学校																													
H25	11.1	5.9																													
H26	16.7	14.7																													
H27	29.0	21.4																													
H28	42.9	45.2																													
H29	57.9	41.9																													
今後の方向性等	○いじめや不登校に関して、きめ細やかな継続的な支援を行っていくためには、早期対応と継続的指導の充実や地域・家庭、関係機関等との密接な連携を継続的に図っていく必要がある。			○教育相談件数も増加傾向にあり、引き続き、相談体制を確保していく必要がある。																											

	<p>○学校と関係諸機関（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、家庭児童相談員、発達支援センター、適応指導教室指導員、主任児童委員等）で構成する「福津市いじめ・不登校等支援連絡会議」における支援体制を強化するとともに、人員の確保等、相談支援体制の拡充を検討する。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>○</p>
<p>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門家による相談機能を充実させる必要がある。</p>	

平成29年度 重点事業シート

14)

事業名	小学校教育振興費（小学校要保護及び準要保護就学援助支援事業）	H29 決算	30,149,414 円		
目的等	保護者に対する経済的支援により児童生徒の就学環境を整える。				
事業内容	○経済的理由によって、就学困難な児童に対し、就学に必要な経費の一部を援助し、義務教育の円滑な実施を図る。				
成果目標	就学援助費を支給する。				
H29年度の成果等	準要保護児童援助		(各年度7月末現在比較)		
		27年度	28年度	29年度	
	認定世帯数	302	306	305	
	認定児童数	409	414	414	
	要保護児童援助				
		27年度	28年度	29年度	
	認定児童数	4	6	6	
	新入学児童生徒学用品費の単価を引き上げる増額改定を行った。				
	新入学児童生徒学用品費の状況				
	対象	単価			認定児童数
	28年度	29年度	増額	28年度	29年度
小学校1年	20,470円	40,600円	20,130円	56	63
今後の方向性等	<p>○就学援助制度の周知方法や支給時期等の運用方法について、他市の状況も調査研究し改善する必要がある。</p> <p>○制度の周知徹底を図る必要がある。</p> <p>○就学援助のうち小・中学新1年生を対象に支給している「新入学児童生徒学用品費」については、平成30年度から支給時期を9月から4月に変更する。</p>				
評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	○				
必要な経済的支援を行なった。					

平成29年度 重点事業シート

14)

事業名	中学校教育振興費（中学校要保護及び準要保護就学援助支援事業）	H29 決算	27,328,129 円																																																			
目的等	保護者に対する経済的支援により児童生徒の就学環境を整える。																																																					
事業内容	○経済的理由によって、就学困難な生徒に対し、就学に必要な経費の一部を援助し、義務教育の円滑な実施を図る。																																																					
成果目標	就学援助費を支給する。																																																					
H29年度の成果等	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">準要保護生徒援助</td> <td colspan="2">(各年度7月末現在比較)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> </tr> <tr> <td>認定世帯数</td> <td>207</td> <td>206</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>認定生徒数</td> <td>226</td> <td>231</td> <td>242</td> </tr> <tr> <td colspan="2">要保護生徒援助</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> </tr> <tr> <td>認定生徒数</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> </table> <p>新入学児童生徒学用品費の単価を引き上げる増額改定を行った。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="6">新入学児童生徒学用品費の状況</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">対象</td> <td colspan="3">単価</td> <td colspan="2">認定生徒数</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>増額</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> </tr> <tr> <td>中学校1年</td> <td>23,550円</td> <td>47,400円</td> <td>23,850円</td> <td>76</td> <td>85</td> </tr> </table>			準要保護生徒援助		(各年度7月末現在比較)			27年度	28年度	29年度	認定世帯数	207	206	213	認定生徒数	226	231	242	要保護生徒援助					27年度	28年度	29年度	認定生徒数	3	6	4	新入学児童生徒学用品費の状況						対象	単価			認定生徒数		28年度	29年度	増額	28年度	29年度	中学校1年	23,550円	47,400円	23,850円	76	85
準要保護生徒援助		(各年度7月末現在比較)																																																				
	27年度	28年度	29年度																																																			
認定世帯数	207	206	213																																																			
認定生徒数	226	231	242																																																			
要保護生徒援助																																																						
	27年度	28年度	29年度																																																			
認定生徒数	3	6	4																																																			
新入学児童生徒学用品費の状況																																																						
対象	単価			認定生徒数																																																		
	28年度	29年度	増額	28年度	29年度																																																	
中学校1年	23,550円	47,400円	23,850円	76	85																																																	
今後の方向性等	<p>○就学援助制度の周知方法や支給時期等の運用方法について、他市の状況も調査研究し改善する必要がある。</p> <p>○制度の周知徹底を図る必要がある。</p> <p>○就学援助のうち小・中学新1年生を対象に支給している「新入学児童生徒学用品費」については、平成30年度から支給時期を9月から4月に変更する。</p>																																																					
評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	○																																																					
必要な経済的支援を行なった。																																																						

平成29年度 重点事業シート

15)

事業名	カレッジ講座運営事業費（カレッジ講座運営事業）	H29 決算	1,395,573 円
目的等	地域や自分たちの住んでいるところ、ふるさとに学び育てられ、それをみんなで教え育てていく。		
事業内容	<p>○生涯学習講座「郷育カレッジ」を開催するもの。</p> <p>○7月にカリキュラムを広報に折り込み、8月に開講記念イベントの「GO!いくフェスタ」を開催。8月から3月までに約90講座を開催し、市民の受講希望者を募り、振り分け、開催後、その取得単位により表彰するなどする。</p>		
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・合計93講座を着実に開催する。 ・参加者の受講満足度を高める。 		
H29年度の成果等	<p>○郷育カレッジでは、福津の「ひと、もの、こと」を題材に、ふるさと、健康福祉、環境、生きがいなど10分野で講座を開設し、郷育の理念である「郷によって育てられ、また皆で郷を育てていく姿」が広く市民に浸透していくことを目指した。また、前年10月から講座カリキュラムを郷育カレッジ運営委員12名と編成してきた。受講生目線、市民目線を取り入れた結果、参加者の受講満足度は4.5点（5点満点）と高い数値を得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座開催実績 「郷育カレッジ講座一覧」に掲載する【通常講座】と郷育カレッジ生以外の方でも参加ができる【公開講座】を開催した。 期間：平成29年8月～平成30年3月 講座数：93講座（うち6講座中止） 登録者数：1,770人 延べ参加者数：2,016人 ・ 出前講座開催実績 地域で活動する10人以上のグループを対象に郷育カレッジの啓発を目的に行う場合とコミュニティ・スクールの一環で学校と連携する場合に講師の派遣を行った。 期間：平成29年4月～平成30年3月 開催数：9回 延べ参加者数：876人 		

<p>今後の方向性等</p>	<p>○郷育カレッジの特徴の1つである循環型の総合学習という点では、受講生が講師になるケースが全体の2割と現状維持にとどまっている。地域で活躍する人材の育成という意味でも、ボランティアとしてまちづくりに参画する市民を育成しながら、指導者としても活躍できる人材の育成を目指していきたい。</p> <p>○「学ぶひと」から「教えるひと」へ育てるために、様々な研修の場や取り組みを設け、学んだ経験や成果を発表する活動の充実を図っていく。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施 ◎</p>	
<p>一部インフルエンザの影響等により中止した講座もあったが、概ね予定どおりの講座数、延べ参加者数に達した。また、受講満足度も高い数値が得られた。</p>	

平成29年度 重点事業シート

19)

事業名	通学合宿実行委員会活動支援事業費（通学合宿実行委員会活動支援事業）	H29 決算	101,000 円
目的等	小学生が団体生活を通して協調性や自主性を養う。		
事業内容	<p>○教育力向上福岡県民運動アクションプランI「実体験を重視した教育を推進しよう」を具現化する取り組み。</p> <p>○実行委員会を設置し、小学校1年生から6年生までの20名程度を対象に、地域の公民館等を利用して、概ね4泊5日程度の日数で、学校外の下校から登校までの日常生活に関する活動を行う。</p>		
成果目標	子どもたちの自立、郷土愛を醸成する。		
H29年度の成果等	<p>○地域の人の見守りの中、小学生が公民館等に宿泊し、自宅を離れて集団生活する通学合宿の機会を創出できた。子どもの自尊感情や協調性、地域への感謝の気持ちの芽生えなど数量では計れない効果がある。地域の子どもと大人が密接に交流する機会となり、実施した緑町区を見ると、地域の大人と子どもの親睦の場となり、あいさつや相手を思いやる気持ちの体験を通し、青少年健全育成、防犯・防災、子ども達の自立など郷土愛の醸成に結びつく事業である。</p> <p>実施団体名：緑町通学合宿実行委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日：平成29年9月3日（日）～9月8日（金）（5泊6日） ・実施場所：緑町公民館 ・参加者数：19名（1年生1人、2年生4人、3年生6人、5年生3人、6年生5人） 		
今後の方向性等	<p>○小学生が公民館等に宿泊し、自宅を離れて集団生活する通学合宿の実施を市内の自治会等に呼びかけ、呼応した自治会と協議し実施しているが、通学合宿に取り組む地域が少ない。</p> <p>○通学合宿を実施する市内の自治会等の募集に当たっては、実施のノウハウを記載した文書を各自治体に配布するなど、分かりやすい説明を心がけ、実施を啓発する。</p>		
評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	○		
実施した地区では、地域の子どもと大人が密接に交流する機会、親睦の場となり、青少年健全育成、防犯・防災意識の向上、子ども達の自立、郷土愛の醸成に結びつくものとなった。			

平成29年度 重点事業シート





20)

事業名	アンビシャス広場推進事業費（アンビシャス広場推進事業）	H29 決算	1,300,000 円
目的等	放課後等における子どもの居場所を確保するとともに、地域住民との世代間交流を行い、子どもの健全育成を図る。		
事業内容	○地域や学校が連携して、地域の公民館や学校の余裕教室を活用して、放課後や休日の子どもの居場所づくりを進める。		
成果目標	子どもたちの健全育成。		
H29年度の成果等	<p>子ども達が放課後に、自由に安心して遊びや活動ができる場や機会を充実させていくことにより、自主性・自立性や社会性、豊かな感性や創造性、体力や運動能力を育むことなど、子ども達の健全な育成に向けて支援を行った。また、アンビシャス広場連絡会を開催し、市内7ヶ所のアンビシャス広場のコーディネーターを集め、子ども達が豊かな体験活動をする場となるよう、連絡会を実施し、情報交換・情報共有を行った。</p> <p>・</p> <p>開所日数及び延べ参加者数</p> <p>①つやざきアンビシャス広場 開所日数：72日 延べ参加者数：1,600人</p> <p>②みやじアンビシャス広場 開所日数：74日 延べ参加者数：1,586人</p> <p>③福間南小校区アンビシャス広場 開所日数：75日 延べ参加者数：1,028人</p> <p>④勝浦アンビシャス広場 開所日数：60日 延べ参加者数：1,691人</p> <p>⑤神興東アンビシャス広場 開所日数：99日 延べ参加者数：3,812人</p> <p>⑥ふくまアンビシャス広場 開所日数：79日 延べ参加者数：1,163人</p> <p>⑦神興アンビシャス広場 開所日数：74日 延べ参加者数：1,004人</p>		
今後の方向性等	<p>○市内にある7ヶ所のアンビシャス広場において、参加する子ども達が豊かな体験活動をする場となるような取り組みについて、各アンビシャス広場の実施方法、体験活動の情報交換・情報の共有の場が少ない。</p> <p>○コーディネーターの連絡会やアンビシャス広場の推進員やボランティ</p>		

	アを対象とした実施研修会を充実させ、今後の活動の資質向上や情報交換・情報共有に取り組む。
評 価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	◎
7 広場とも、概ね当初の予定どおりの開所日数、延べ参加者数に達した。また、連絡会を実施し、情報交換・情報共有を行い連携の強化ができた。	

平成29年度 重点事業シート

23)



事業名	海洋性スポーツ施設管理運営費（海洋性スポーツ事業）	H29 決算	4,579,602 円
目的等	市内小学生に、海に親しめる環境を整備するとともに、勝浦漁港の海洋資源を活用した観光イベント等を開催し、地域の活性化につなげる。		
事業内容	○宗像地区の青少年にヨットやカヤックなどの海洋性スポーツの体験をはじめ、海を取り巻く環境問題、宗像地域の海と人との歴史的な関わりなどの学習機会を提供し、郷土愛の醸成、青少年の健全育成につなげていく。宗像市との共同事業。		
成果目標	青少年の健全育成。		
H29年度の成果等	<p>○小学校体験モデル事業 宗像市・福津市内の小学校 10 校 18 クラスの参加：延べ人数 501 名</p> <p>○青少年団体体験モデル事業 宗像市・福津市内の青少年団体 5 団体の参加：延べ人数 130 名</p> <p>○夏休み親子ヨット教室事業 7/31、8/21 の 2 回実施：延べ人数 40 名</p> <p>○OOP ヨット大会事業 7/1、7/2 の 2 日間：参加人数 50 名</p> <p>○マリンフェスタ事業 6/25 に実施：参加人数 100 名</p> <p>○一般利用者受入事業 5 日間実施：参加人数 10 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>【小学校体験モデル事業の様子】 ↑</p> <p>体験内容：ヨット、カヤック、 ロープワーク</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>← 【マリンフェスタ事業の様子】</p> <p>体験内容：ヨット、カヤック、 ロープワーク、</p> </div> </div>		

<p>今後の方向性等</p>	<p>○小学校体験モデル事業においては、参加した小学生にとってはかなり好評であるが、全ての小学校の参加が見られるわけではなく、学校により格差が生じている状況である。</p> <p>○また、授業の一環で行われており、ヨット体験ができる時間はないため、一過性の参加にとどまっている。</p> <p>○一般受入事業に関しては、周知が図られていないため、参加者数が少ない。</p> <p>○事業を推進するため直営により、勝浦浜セーリング連盟と委託契約を締結しているが、今後指定管理者による管理運営も検討しなければならない。</p> <p>○各小学校に対し、事業の内容説明と参加を呼びかける。</p> <p>○勝浦浜海洋スポーツセンターの周知活動。</p> <p>○管理運営に関する指定管理者制度導入の検討。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>◎</p>
<p>小学校体験モデル事業、青少年団体体験モデル事業、夏休み親子ヨット教室事業、マリンフェスタ事業ともに、概ね予定どおりの参加者数を得た。</p>	

平成29年度 重点事業シート

24)

事業名	地方創生事業費（地方創生推進事業）	H29 決算	16,482,999 円
目的等	世界遺産登録を契機に、地域の活力と賑わいのあるまちづくりを目指す。		
事業内容	○情報誌等を活用した観光PRや展望所での観光案内を実施し、登録直後に急増する来訪者対応のための安全対策や交通対策も併せて実施する。また、登録記念式典など、登録イベントを世界遺産推進会議を中心に実施する。		
成果目標	世界文化遺産に登録後に急増する来訪者の便益性を高める。		
H29年度の成果等	<p>○世界遺産登録を受け、来訪者が増加するなかで、来訪者の便益性の充実に努めるため、駐車場警備員や、観光ボランティアの配置、及び交通対策としてシャトルバスの運行を実施した。また、ガイダンス施設であるカメラステージ内のCGビデオについてインバウンド対策として多言語化を実施した。</p> <p>○周知活動においては、登録記念式典や主要都市においてシンポジウムなどを開催し、資産価値の発信や福津市のPRにつながった。</p>		
			
<p>世界遺産シャトルバス 運行日数59日</p>			
			
<p>展望所観光ボランティアガイド</p>			

	 <p>新原・奴山古墳群ビデオ三カ国トップ画面 カメラステージ歴史資料館</p>  <p>世界遺産登録記念式典 9月2日宗像ユリックス</p>
<p>今後の方向性等</p>	<p>○公共交通によるアクセスの充実については、イコモスへの公約事項のひとつである。現在は、市がシャトルバスを運行しているが、将来的には民間力を活用することが適当であると考え、民間バスの協力が得られない状況においては、その他交通手段の充実化を図る必要がある。また、資産価値が十分に理解されるためのガイダンス機能を充実させることが必要である。</p> <p>○交通アクセスの充実化のために、タクシーやレンタカー業者などとの連携を強化し、また、シャトルバスのルートを見直すなど来訪者が利用しやすい交通アクセスを検討する。ガイダンス機能の充実化については、ARやアプリ、サインなどの整備活用を進める。</p>
	<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p> <p>○</p> <p>展望所に観光ボランティアを配置し、来訪者に直接ガイドすることにより、資産価値を効果的に伝えることが出来た。</p>

平成29年度 重点事業シート

24)

事業名	世界遺産登録活動事業費（世界遺産登録周知活動事業）	H29 決算	682,560 円
目的等	世界遺産登録に不可欠である地域住民の理解と協力を得る。		
事業内容	○新原・奴山古墳群を中心に「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の資産価値などについて市民をはじめ、多くの人々に広く周知する事業を実施する。		
成果目標	多くの人々に世界文化遺産の登録について理解を求める。		
H 2 9 年 度 の 成 果 等	<p>世界遺産登録推進のために設置していた看板を改修し、福津市が世界遺産のある町となったことのPRと、リーフレット作成により来訪者等に資産価値を分かりやすく伝える役割を果たした。</p>  <p style="text-align: center;">勝浦浜ゲートサイン</p>		
今後の方 向性等	<p>○国内外に資産価値の発信を進めていくこと、及び、多くの市民が世界遺産のある町に住んでいることに誇りを持ち、未来へつなげる活動が必要である。</p> <p>○国内外への発信は、福岡県や宗像市と連携し、保存活用協議会においてPRを進める。市民に対しては、継続して広報等で周知するとともに、未来へつなぐ担い手である子供たちへの世界遺産学習を進めていく。</p>		
評 価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	○	

平成29年度 重点事業シート

24)

事業名	世界遺産登録活動事業費（世界遺産登録活動事業）	H29 決算	25,474,789 円
目的等	世界遺産暫定リストに登載されている「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」をユネスコ世界文化遺産に登録する。		
事業内容	○新原・奴山古墳群を構成資産とする「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群を世界文化遺産の登録を受けるための活動を行い、登録を受けた後は、記念イベントや公開活用活動について福岡県及び宗像市と共同して実施する。また、来訪者対策として、サイン整備や警備員の配置などを実施するとともに「古墳馬車」の運行を開始し、来訪者が満足できる環境づくりを進める。		
成果目標	世界文化遺産の登録を受け、来訪者が満足する環境づくりを進める。		
H29年度の成果等	○第41回世界遺産委員会において、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の全ての遺産が世界文化遺産への登録が決定し、新原・奴山古墳群への来訪者が増加した。また、遊歩道の整備や解説板等の設置により、来訪者の安全性、利便性が図られた。		
			
世界遺産委員会		遊歩道整備	
			
世界遺産登録銘板・解説板			

<p>今後の方向性等</p>	<p>○世界遺産登録活動から保存活用活動へ移行するため、その体制を確立していくとともに、来訪者が更に安全で満足して回遊できる環境づくりを進める必要がある。また、普遍的な価値を立証していくための調査、研究も求められている。</p> <p>○保存活用活動を実施するために、福岡県、福津市、宗像市、及び宗像大社を含めた四者で「世界遺産保存活用協議会」を設置し、専門家の意見を参考としながら調査研究を進める。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>○</p>
<p>多くの人々の理解と支援により、世界文化遺産の登録を受けることが出来た。</p>	

平成29年度 重点事業シート

24)

事業名	古墳公園建設事業費（古墳公園史跡等購入事業）	H29 決算	2,895,805 円																																																				
目的等	津屋崎古墳群を次世代に確実に継承する。																																																						
事業内容	○国指定史跡「津屋崎古墳群」を保存・管理するために、国県の補助を受けて公有化を行う。																																																						
成果目標	公有化率を高める。																																																						
H29年度の成果等	○平成29年度に公有化予定としていた事業所等について、事前交渉が難航し事業完了が見込めないことから、公有化予定物件を変更し平成30年度へ繰越事業とした。																																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>購入年度</th> <th>購入面積(m²)</th> <th>累計面積(m²)</th> <th>進捗率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>平成18年度</td><td>5,016</td><td>5,016</td><td>3%</td></tr> <tr><td>平成19年度</td><td>5,476</td><td>10,492</td><td>6%</td></tr> <tr><td>平成20年度</td><td>7,038</td><td>17,530</td><td>10%</td></tr> <tr><td>平成21年度</td><td>4,538</td><td>22,068</td><td>12%</td></tr> <tr><td>平成22年度</td><td>36,240</td><td>58,308</td><td>32%</td></tr> <tr><td>平成23年度</td><td>10,735</td><td>69,043</td><td>38%</td></tr> <tr><td>平成24年度</td><td>22,390</td><td>91,433</td><td>51%</td></tr> <tr><td>平成25年度</td><td>11,101</td><td>102,534</td><td>57%</td></tr> <tr><td>平成26年度</td><td>1,527</td><td>104,061</td><td>58%</td></tr> <tr><td>平成27年度</td><td>1,022</td><td>105,083</td><td>58%</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>m</td><td>105,083</td><td>58%</td></tr> <tr><td>平成29年度</td><td>m</td><td>105,083</td><td>58%</td></tr> </tbody> </table>			購入年度	購入面積(m ²)	累計面積(m ²)	進捗率(%)	平成18年度	5,016	5,016	3%	平成19年度	5,476	10,492	6%	平成20年度	7,038	17,530	10%	平成21年度	4,538	22,068	12%	平成22年度	36,240	58,308	32%	平成23年度	10,735	69,043	38%	平成24年度	22,390	91,433	51%	平成25年度	11,101	102,534	57%	平成26年度	1,527	104,061	58%	平成27年度	1,022	105,083	58%	平成28年度	m	105,083	58%	平成29年度	m	105,083	58%
購入年度	購入面積(m ²)	累計面積(m ²)	進捗率(%)																																																				
平成18年度	5,016	5,016	3%																																																				
平成19年度	5,476	10,492	6%																																																				
平成20年度	7,038	17,530	10%																																																				
平成21年度	4,538	22,068	12%																																																				
平成22年度	36,240	58,308	32%																																																				
平成23年度	10,735	69,043	38%																																																				
平成24年度	22,390	91,433	51%																																																				
平成25年度	11,101	102,534	57%																																																				
平成26年度	1,527	104,061	58%																																																				
平成27年度	1,022	105,083	58%																																																				
平成28年度	m	105,083	58%																																																				
平成29年度	m	105,083	58%																																																				
	<p>津屋崎古墳群 公有化進捗状況</p> <p>■ 購入面積 (m²) ▨ 累計面積 (m²) - - - 進捗率 (%)</p>																																																						

<p>今後の方向性等</p>	<p>○新原・奴山古墳群の史跡地内にあるカントリーエレベーター、及び産業廃棄物処理施設は、大規模で特質性のある物件であり、補償調査や交渉に時間を要するが、早期公有化を求められている。</p> <p>○専門的知識を習得するとともに、必要に応じて専門家の指導を受けながら公有化を進める。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>△</p>
<p>平成 29 年度中の公有化が進まなかった。</p>	

平成29年度 重点事業シート

24)

事業名	古墳公園建設事業費（津屋崎古墳群保存整備事業）	H29 決算	77,670,917 円
目的等	訪れる人々がその歴史的価値や重要性を再認識し、自然や歴史・文化を満喫できるようにする。		
事業内容	<p>○国指定史跡津屋崎古墳群について国県補助を受けながら保存整備事業を進める。</p> <p>○本年度は、世界遺産登録に向け来訪者対策が必要な新原・奴山古墳群について、展望所の整備を行うとともに、新原・奴山15号墳の保存修理工事に必要な事前発掘調査及び史跡地内にある建造物の撤去を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展望所整備工事 便所、詰所、四阿等設置、展望スペース（約200平米）整備 ・建造物撤去工事 火葬場跡コンクリート建造物撤去 		
成果目標	展望所の整備を進め、来訪者の利便性を高める。		
H29年度の成果等	<p>○来訪者が円滑な回遊が出来るよう、展望所にトイレや詰所、四阿、展望スペースなどを整備し、併せて資産内に資産サインを設置した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>トイレ棟</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ガイド詰所棟・四阿</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>展望スペース、解説板</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15号墳調査（現地説明会）</p> </div> </div>		

<p>今後の方向性等</p>	<p>○展望所については、更なる利便性、及び安全性を図るため、駐車場の整備を行う必要がある。また、資産価値を立証するための調査研究が不足している、及び築造当時の古墳の復元整備を計画すべきとの指摘があることから、その調査研究、整備計画を策定し、実施していく必要がある。</p> <p>○駐車場整備については、新たな財源を確保したうえ早期着手を検討する。調査研究、及び整備計画については、専門家の意見を参考とし、文化庁や県と連携し、計画策定を進めていく。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>○</p>
<p>展望所の便益施設の整備が進み、来訪者対策の充実化が図られた。</p>	




平成29年度 重点事業シート

24)

事業名	図書館事業費（子ども司書養成事業）	H29 決算	89,778 円
目的等	読書活動を推進するリーダー（子ども司書）を養成する。		
事業内容	○市内在住の小学4年生から6年生までの児童を対象に、読書や図書館に関する理解を深めるための講義や実習など5講座を開催し、家庭や学校、地域などで読書活動推進の一翼を担う「ふくつ子ども司書」に認定する。また、これまでに誕生した「ふくつ子ども司書」に対するフォローアップ研修も併せて実施し、子ども司書活動の充実を図る。		
成果目標	子どもたちに読書や図書館に対する理解を深める。		
H29年度の成果等	○今年度は19名の子ども司書を認定する。（これまでの累計161名） 子ども司書養成講座（8日間開催）参加者19名に認定証交付 子ども司書フォローアップ講座（3日間開催）延べ20名参加 子ども司書活動日（夏冬休み開催）延べ33名参加 子ども司書のおはなし会（子ども司書3名参加）		
今後の方向性等	○子ども司書が市立図書館以外でも活動できる場づくりや環境整備等、子ども司書活用のための学校との更なる連携の必要性がある。 ○年度当初に各小学校に子ども司書の名簿を配布して、学校でも子ども司書を積極的に活用できるよう周知する。		
評価	「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	◎	
予定通りに事業を進めることができ、19名の子ども司書を認定することができた。			

平成29年度 重点事業シート

24)

事業名	複合文化センター管理運営費 (複合文化センター管理運営事業)	H29 決算	112,152,823 円
目的等	津屋崎庁舎の再生整備施設として新たに複合文化センターとして、市民の生活の拠点及び賑わいを生む施設として管理運営を実施する。		
事業内容	<p>○複合文化センターは、市民が自ら学び成長していく事を応援し、地域の活性化につながるなど市民の役に立ち市民が楽しめる施設運営を行う。</p> <p>○オープニングイベントでは記念式典・講演の開催、文化事業として各種コンサート、映画上映会、市民参加型のワークショップなどを実施。読書推進事業として講演会やお話会、歴史資料館では展示企画などを実施する。</p>		
成果目標	市民の憩いや学習の場として、市民から親しまれる施設運営を行う		
H29年度の成果等	<p>○新しい複合文化施設として再生整備を進めてきた津屋崎庁舎は、市民の情報収集の場、新しい出会いや発見の場をコンセプトとした新しい「カメラアステージ」として7月8日にオープンした。</p> <p>1階は、主に歴史資料館エリアとなっており、展示室では、市内で出土した貴重な文化財や歴史資料を公開するほか、市の通史も紹介している。またカフェコーナーや「福津の極み」商品などの特産品紹介コーナーも設置している。</p> <p>2階は、図書館エリアとなっており、図書の貸し出しや情報の提供だけでなく、親子読書室や学習室、多目的室など、さまざまなブースを備え、読書や学習に訪れた人が楽しく過ごすことができる「滞在型図書館」となっている。</p> <p>3階は、起業支援と企業誘致の場となる企業センターとし、貸事務所や株式会社 TMJ のオフィスとして運用が図られている。</p>		
  			

<p>今後の方向性等</p>	<p>○整備事業は平成 29 年 4 月末に完了した。</p> <p>○現在は、地域の拠点として指定管理者による運営を図っており、毎月 10,000 人程度の入館者が訪れている。</p> <p>○運用開始から 9 ヶ月が経過し、文化会館（カメラアホール）の施設を利用した自主事業に集客が見られていない。</p> <p>○また、開館時間について 11 時から 21 時となっているが、朝の開館時間が遅いとの苦情が多く寄せられている。</p> <p>○管理費に見合う集客を図るため、市民が興味を引く自主事業の開催が望まれる。指定管理者との情報共有、協議を図りよりよい運営を目指す。</p> <p>○指定管理者との協議を進め、開館時間の変更をすべきかどうかの検討を図る。</p>
<p>評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施</p>	<p>◎</p>
<p>旧津屋崎庁舎の再生整備事業を終え、7 月 8 日に新たに「カメラアステージ」としてオープンした。以後、毎月 10,000 人程度の入館者が訪れている。</p>	

平成29年度 重点事業シート

【国際交流】

事業名	国際交流事業費（海外表敬訪問団歓迎事業）	H29 決算	367,527 円												
目的等	国際文化交流や相互理解を深める一助となることを目的としている。														
事業内容	○韓国慶州市と福津市の民間国際交流団体である『日韓慶福交流会』は、平成10年から毎年、春に福津市から慶州市へ、秋に慶州市から福津市を訪問する相互交流を実施している。市としても、慶州訪問団の福津市訪問の際には温かく迎え、活動を支援する。														
成果目標	市民の国際相互理解を深める。														
H29年度の成果等	○日韓慶福交流会慶州訪問団が11月10日～12日に訪日。福津市内及び周辺で計画された行程の移動手段となるバスを借り上げ、バス車内でのお茶・菓子、親睦会でのふるまいとして使用する福津市産野菜などを提供した。福津市及び慶州市の会員同士の交流により、相互理解がより深まり、新原・奴山古墳群の見学などで市のPRにも繋がった。														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月日(曜)</th> <th>行</th> <th>程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11/10 (金)</td> <td> 貸切バス (福津会員乗車) 福津市中央公民館⇒(都市高速)⇒福岡空港(BX142便 10:50着)⇒(都市高速)⇒朝鮮通信使石碑⇒福津市津屋崎漁港(昼食:空と海)⇒ 10:00発 10:50～12:00 <出迎え> 13:00～13:10 13:15～14:15 (福津会員降車) 【歓迎会「友情の夕べ」】 新原・奴山古墳群⇒「ガリガリ」(歴史資料館)⇒福津市中央公民館⇒新原AZ 福岡宗像(フェイク・休憩)⇒ぶどうの樹福間海岸通り店 14:30～14:50 15:00～15:30 15:35～15:40 16:00着 17:30発 17:50着 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>11/11 (土)</td> <td> 貸切バス (福津会員乗車) 福津市中央公民館⇒新原AZ 福岡宗像⇒若宮 IC⇒下関 IC⇒下関市日清講和記念館…赤間神宮…朝鮮通信使上陸海留之地記念碑…唐戸市場 07:30発 08:00 09:30(下車) 12:00(乗車) <5階・海峡ふくろ> ⇒(関門トンネル)⇒門司港「海峡ドライブ」(昼食とレトロ地区散策)⇒門司港 IC⇒古賀 IC⇒福津市中央公民館⇒福津市岡谷公民館 12:30～16:00 (福津会員降車) 【親睦会】 17:00～17:10 17:30着 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>11/12 (日)</td> <td> 貸切バス (福津会員乗車) 新原AZ 福岡宗像⇒イオンモール福津(買物・昼食)⇒(福岡都市高速)⇒博多駅筑紫口貸切バス駐車場(博多駅周辺にて買物等)⇒ 09:00発 09:20～12:00 13:00着 16:00発 (福津会員降車) 福岡空港(BX143便 19:40発・見送り)⇒(福岡都市高速)⇒イオンモール福津 解散 16:30～19:00 20:00着 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>●記入例/JR 〃 航空機 〃 私鉄 +++ 船 ~~~ フェリー・ボート (フ) ~~~ 徒歩 ... バス = 〃 タクシー (タ) = 〃 ケーブル・ロープウェイ・モノレール +++</p>			月日(曜)	行	程	11/10 (金)	貸切バス (福津会員乗車) 福津市中央公民館⇒(都市高速)⇒福岡空港(BX142便 10:50着)⇒(都市高速)⇒朝鮮通信使石碑⇒福津市津屋崎漁港(昼食:空と海)⇒ 10:00発 10:50～12:00 <出迎え> 13:00～13:10 13:15～14:15 (福津会員降車) 【歓迎会「友情の夕べ」】 新原・奴山古墳群⇒「ガリガリ」(歴史資料館)⇒福津市中央公民館⇒新原AZ 福岡宗像(フェイク・休憩)⇒ぶどうの樹福間海岸通り店 14:30～14:50 15:00～15:30 15:35～15:40 16:00着 17:30発 17:50着		11/11 (土)	貸切バス (福津会員乗車) 福津市中央公民館⇒新原AZ 福岡宗像⇒若宮 IC⇒下関 IC⇒下関市日清講和記念館…赤間神宮…朝鮮通信使上陸海留之地記念碑…唐戸市場 07:30発 08:00 09:30(下車) 12:00(乗車) <5階・海峡ふくろ> ⇒(関門トンネル)⇒門司港「海峡ドライブ」(昼食とレトロ地区散策)⇒門司港 IC⇒古賀 IC⇒福津市中央公民館⇒福津市岡谷公民館 12:30～16:00 (福津会員降車) 【親睦会】 17:00～17:10 17:30着		11/12 (日)	貸切バス (福津会員乗車) 新原AZ 福岡宗像⇒イオンモール福津(買物・昼食)⇒(福岡都市高速)⇒博多駅筑紫口貸切バス駐車場(博多駅周辺にて買物等)⇒ 09:00発 09:20～12:00 13:00着 16:00発 (福津会員降車) 福岡空港(BX143便 19:40発・見送り)⇒(福岡都市高速)⇒イオンモール福津 解散 16:30～19:00 20:00着	
月日(曜)	行	程													
11/10 (金)	貸切バス (福津会員乗車) 福津市中央公民館⇒(都市高速)⇒福岡空港(BX142便 10:50着)⇒(都市高速)⇒朝鮮通信使石碑⇒福津市津屋崎漁港(昼食:空と海)⇒ 10:00発 10:50～12:00 <出迎え> 13:00～13:10 13:15～14:15 (福津会員降車) 【歓迎会「友情の夕べ」】 新原・奴山古墳群⇒「ガリガリ」(歴史資料館)⇒福津市中央公民館⇒新原AZ 福岡宗像(フェイク・休憩)⇒ぶどうの樹福間海岸通り店 14:30～14:50 15:00～15:30 15:35～15:40 16:00着 17:30発 17:50着														
11/11 (土)	貸切バス (福津会員乗車) 福津市中央公民館⇒新原AZ 福岡宗像⇒若宮 IC⇒下関 IC⇒下関市日清講和記念館…赤間神宮…朝鮮通信使上陸海留之地記念碑…唐戸市場 07:30発 08:00 09:30(下車) 12:00(乗車) <5階・海峡ふくろ> ⇒(関門トンネル)⇒門司港「海峡ドライブ」(昼食とレトロ地区散策)⇒門司港 IC⇒古賀 IC⇒福津市中央公民館⇒福津市岡谷公民館 12:30～16:00 (福津会員降車) 【親睦会】 17:00～17:10 17:30着														
11/12 (日)	貸切バス (福津会員乗車) 新原AZ 福岡宗像⇒イオンモール福津(買物・昼食)⇒(福岡都市高速)⇒博多駅筑紫口貸切バス駐車場(博多駅周辺にて買物等)⇒ 09:00発 09:20～12:00 13:00着 16:00発 (福津会員降車) 福岡空港(BX143便 19:40発・見送り)⇒(福岡都市高速)⇒イオンモール福津 解散 16:30～19:00 20:00着														
今後の方向性等	○以前と比較して、慶州訪問団の人数が減少（H27：21名→H29：13名）しているため、より多くの慶州会員の福津市訪問が望まれる。 ○慶福双方の会員数や交流機会での参加者数増加を促し、交流の活性化、広がりを期待する。														
評価「◎」達成 「○」概ね達成 「△」未達成 「×」未実施	◎														
民間の国際交流事業であるが、バス借り上げや福津市産の食材提供などにより側面支援を行った。また、今年度は見学コースに新原・奴山古墳群も加え、市のPRにも繋がった。															

4 点検・評価に対する学識経験者からの意見

上記の「点検及び評価」の報告書が、「1. 教育委員会の活動状況」及び「2. 事務事業の取組状況と点検及び評価」の2部構成になっているので、それぞれに分けて、意見を述べることにする。

1. 教育委員会の活動状況について

○教育委員会の会議の日数、協議・報告内容等の状況を見る限り、大変熱心に行われている。また、明記されていないが、学校訪問や各種行事への出席も数多くなされ、教育現場の実態把握や情報収集に努められている。このことは高く評価できる。今後も、地域や教育現場の実情に応じた施策が進められるように教育現場の実態把握とともに教育現場や関係者との意見交流に努めて頂きたい。

○開かれた教育委員会活動の一環の情報の発信については、ウェブサイト上で、教育委員会の傍聴制度、開催日時、場所、会議録等、教育委員会の情報の掲載に努めたり、「福津市教育プラン」のドリームプランとして概要版を掲載したりなど、広く市民に活動状況を分かりやすく理解して頂くような努力が見られる。本年度の傍聴者の状況も知りたいところであるが、市民の教育に対する関心は大変高く、よい傾向である。今後も継続して情報の発信等に努めて頂きたい。

2. 教育施策の推進状況について

福津市教育委員会は、平成22年度に「福津市教育総合計画」を策定し、めざす子どもの姿を「夢や希望を持ち、健やかに育つ子ども」とし、3つの基本的な方向「1. 学校運営に地域が参画するしくみをひろげ活かす 2. 学び合い、活動し合う場をつくり、活かす 3. 子どもの学びを支える質の高い教育環境を整える」と、その具体的な取組として13の施策を定めている。また、毎年、重点的に取り組む教育の方向を示した「福津市教育ドリームプラン」を策定し、推進している。そして各主要施策ごとに教育施策の推進状況に関する点検及び評価を行っている。

まず、はじめに全般的な評価として、各教育施策について、「事業の目的、事業内容、成果目標」「1年間の施策の主な取組状況（成果）」「今後の取組の方向性」「評価」に分けて述べられていることについて、高く評価したい。これまで教育行政でよく見られたのが、各具体的施策そのものが目標化されていることが多く、そのために毎年同じ施策の繰り返しを展開されているということである。しかし、福津市の各教育施策は、「各施策の目的・ねらい」に基づいて、具体的な取組を計画し、実行し、点検・評価して、次年度の活動目標（方向性）につなげている。具体的には、4月から計画にそって進められ、途中、学校訪問等でチェックをしながら、2月の「コミュニティ・スクール報告会」で終わる、といった「PDCAのマネジメントサイクル化」ができていているということである。最終報告会の出席者についても、教育委員会事務局、市長部局だけでなく、各学校の学校運営協議会委員も参加して

おり、学校・家庭・地域の連携・共働による福津市の教育の推進の姿が見られる。大変よい姿である。今後はさらに多くの市民に広げていく工夫が必要になるであろう。

次に、柱ごとに具体的な主要施策のいくつかについて、意見を述べることにする。

柱1；コミュニティ・スクールの充実・深化

○CS全校導入7年目を迎え、学校・家庭・地域が連携・共働し、社会（福津市）総がかりで教育が進められるよう様々な取組が行われている。コミュニティ・スクール研究発表会では、毎年順番に行われているものであり、本年度は津屋崎中学校区が担当した。前年度の課題（CSの特色づくり）を受けて、地域連携カリキュラムを特色とした内容の発表会であり、大変参考となる内容が公開された。また、「ふるさと福津」副読本の作成は、福津市の特色あるカリキュラムづくりの核となるものであり、さらに地域連携共働カリキュラムの充実へ寄与できると考える。夏に行われているコミュニティ・スクールフォーラムについては、学校運営協議会の活性化に向けて学校運営協議会委員の資質向上と学校運営協議会の運営改善を目的として開催されているもので4年が過ぎており、当初の目的はほぼ達成できているのではないかと考える。今後は学校運営協議会委員のような代表者だけでなく、より多くの市民に広がるような取組になるよう改善をお願いしたい。

柱2；学校運営体制の支援と学力向上の推進

○確かな学力をはぐくむために、平成25年に策定した「福津市学力向上スタンダード」を機能させるために、教頭研修会を「福津市学力向上推進会議」の場として位置づけ、福津市学力向上スタンダードの定着状況の共有及び改善案の検討が行われた。結果、中学校区単位での学力向上スタンダードになり、かなりの定着が進んでいること、そして、全国学力・学習状況調査結果も全国平均以上（小中学校の国語科AB、算数・数学科AB）の結果になったことは高く評価できる。

○市内全ての学校で、QUテストを実施し、その活用のために校内QU研修会・QU活用担当者研修会が開催された。そして、学級担任及び教科担任等が学級集団状況や児童生徒の課題を客観的に分析し、学級集団の改善策や個別の支援差を検討し、実践検証を進めることができている。結果、要支援群の人数が減少したクラスがほとんどで、成果が見られる。これは、市内全体での取組にしたことによる成果であり、高く評価できる。

○定期学校・園訪問については、めざす子どもの姿の実現に向けて、教育内容や学校組織等の質的向上を図るために、訪問の内容を、「学力向上の取組」「いじめ・不登校の未然防止の取組」「地域資源の活用による特色ある教育課程」の3つの焦点化した訪問を行っている。このことは、市の重点施策を意識するとともに、学校と教育委員会との連携充実にも寄与できると思われる。とても効果のある学校訪問であると考えられる。

柱3；教育環境の整備

○現在、学校現場では個別の支援を要する子どもの増加への対応は、喫緊の課題である。そういう意味からも指導員・支援員等の配置は不可欠である。そして、教育指導員、適応指導

教室指導員、特別支援教育支援員、SC、SSW等の専門スタッフと校内の教員スタッフとがパートナー関係を築きながら、チーム学校として機能するようにマネジメントすることが求められる。校内スタッフと専門スタッフが一枚岩になって子どもたちへの指導・援助を進められることを期待したい。

柱4；生涯学習の充実、地域・家庭の教育力向上

○「郷育カレッジ」については、福津市の特色ある事業の一つであり、取組の充実が見られる。ただ、コミュニティ・スクールの取組と連携をさせながら充実させている地域とそうでない地域に差が出てきているようである。今後は地域コーディネーターを中心に学校運営協議会と連携を図りながら進められるように工夫していく必要がある。

柱5；子どもの体験活動の充実

○コミュニティ・スクールの地域の取組の一つとして「通学合宿」「アンビシャス広場」「子ども会の活動」等の充実が見られる。アンビシャス広場については市内7カ所で進められ多くの子どもたちが集まり、子どもの豊かな体験活動ができている。コーディネーター連絡会を実施し、情報交換や情報共有をしながら進められている。「通学合宿」については、まだ特定地域の取組になっているようなので啓発をしながら広げていくことが大切である。

柱6；スポーツ文化芸術活動の充実

○スポーツ関係で、海洋性スポーツ事業については、福津の地域性を活かした事業として素晴らしいと考える。概ね予定どおりの参加者数を得ているが、まだ学校によって格差が生じているようなのでさらなる啓発活動が必要である。また、学校の新体力テストの支援活動については学校からの求めでもあり、今後も積極的に進めて頂きたい。

福岡教育大学教授 伊藤 克治 氏からの意見

1 福津市教育委員会の事務に関する点検・評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、福津市教育委員会では平成29年度の教育委員会の事務について、主に「福津市ドリームプラン」に関して点検及び評価を行っている。取組状況については、25の重点事業シートにまとめられており、各シートでは、目的、目標、成果、今後の方向性を簡潔にまとめ、「◎（達成）」、「○（概ね達成）」、「△（未達成）」、「×（未実施）」の4段階で自己評価されている。このように、評価しやすい形で整理されていると共に、公表される市民に向けても分かりやすい内容になっており、市民目線で取り組む姿勢は高く評価できる。

次回の点検・評価のことになるが、平成30年度に継続した事業については、平成29年度の本点検評価を踏まえてどのように改善されたか、あるいは深化したかについて検証し、実効性のあるPDCAサイクルを継続することが望まれる。

2 「教育委員会の活動状況」について

法改正に伴い、平成27年度から設置された「総合教育会議」は、平成29年度は3回開催されるとともに、教育委員会会議は例会12回に加えて臨時会2回が開かれ、合計40件の議案が審議されている。その議事録については、教育委員会のホームページで公表しており、適切かつ透明性の高い活動がされているものと評価できる。

3 「事務事業の取組状況と点検及び評価」について

福津市では、毎年、「福津市教育ドリームプラン」を定め、その中でコミュニティ・スクール（CS）を中心に据えた特色ある教育行政を総合的に進めている。福津市のCSは、平成29年度は全校導入から7年目の充実期に入っており、CSの特長を活かした様々な取組が充実していることは高く評価できる。文部科学省HPでも、全国の様々な実践事例と成果が公開されているが、CSの成果としては、子ども達の学力をはじめとする認知スキルや非認知スキルの向上だけでなく、家庭や地域の教育力の向上や地域の活性化も挙げられている。引き続き、様々な「人・もの・こと」のつながりの中で、CSを積極的に進めることが期待される。その一方で、近年は「教員の働き方改革」も指摘されているので、学校・家庭・地域の関係者で熟議の上、目標共有と役割分担を明確にし、学校の負担過重にならないようにすることに留意する必要がある。また、CSを進めるにあたっては、学校教育現場では教員研修を充実させるとともに、学校とスムーズな連携ができるように、社会教育と家庭教育の支援も必要になるが、様々な支援も計画的・継続的に行われていることも評価できる。以下に、個別の重点シートの記載内容から、気が付いた点を述べる。

○「学校運営協議会事業」では、目的等と成果目標が重なっているように感じました。例えば、目的等には「コミュニティ・スクールの円滑な推進のために学校運営協議会の運営を

支援する」としておき、成果目標には、「フォーラムやフェスタの開催」、「地域学校協働本部の整備」、「地域学校協働本部推進員（コーディネーター）の配置」など、具体的にどのような取り組みを行うのか、また、可能なものはその数値まで記載すると、取り組みの効果についての検証が容易になる。さらに成果目標に関連して、例えば、「教育相談事業」では、専門スタッフの配置数や不登校の解消率などの数値目標で示す方法もあるかと考える。

「カレッジ講座運営事業」では、「参加者の受講満足度を高める」ことが成果目標になっているが、すでに満足度が高いと判断されるので、例えば、「受講満足度4.5以上を維持する」という数値目標の示し方も考えられる。一方で、支援等に関わる事業は事前に数値が予測できないなど、数値目標が馴染まないものもある。事業の性質に応じて、無理がなく、かつ、検証しやすいような目的等と成果目標の設定が必要である。

○「小学校施設大規模改造事業」に記載されているように、現在、福間小、福間南小、津屋崎小の児童数が急増しているため、計画的な改修と共に、校舎増築・新築も含めた総合的な対応が喫緊の課題であると考えられる。「福津市ドリームプラン」だけでは対応できないので、関連部署との一層の連携の下で、対応をお願いしたい。

○上記に関連して、児童生徒数の増加は、安定した給食提供にも影響するものと考えられるので、児童生徒数の増加を踏まえた整備も合わせて重要であると考えられる。

○少人数教育支援員の配置は重要な事業と言えるが、現在、福岡県では教員大量採用の状況にあり、講師の確保は確かに厳しいと思われる。可能な範囲で配置を行いつつ、CSの仕組みを利用した補充学習など、現状でできる対応を考えることも必要だと思われる。

○OSC、SSWをはじめとする様々な専門スタッフの連携により、不登校解消率が高くなっていくのは特筆すべきことである。児童生徒数が増えれば、教育相談件数やいじめ、不登校の数は増えると予想されるので、引き続き、相談・対応体制を確保することが望まれる。

○通学合宿、アンビシャス広場、小学校体験モデル事業など、様々な体験活動に支援されていることは評価できる。今後の方向性等に挙げられているが、せっかく良い取り組みがされているので、その価値をしっかりと広報することが必要だと思われる。

4 評価についての総括等

全般的に、丁寧な自己評価がされていると判断される。25もある重点事業シートの評価は大変な作業であるが、これにより、真に必要な事業に必要な予算をかけることが可能となるだけでなく、市民の理解と支援も得られる。この姿勢を継続することが望まれる。

福津市の特色・強みであるCSのさらなる深化により、変化の激しい21世紀社会をたくましく生き抜く子ども達が育つと共に、福津市がさらに活性化することを期待している。

福岡教育大学家政教育講座 准教授 奥谷 めぐみ 氏 からの意見

本意見書は、福津市教育委員会が作成された、平成29年度事業の「事務に関する点検・評価報告書」の重点シートに基づきそれぞれの事業について、意見を申し述べるものである。

【事業1)～4) コミュニティ・スクールの充実・深化】

コミュニティ・スクールの推進及び活用について、フォーラムにも多くの教育現場の先生方が参加され、積極的に学校内外に向けて情報を発信している点が高く評価できる。内容も世界遺産を中心に、自分が住む地域の特色について学ぶ題材が設定されていることがうかがえた。

児童・生徒が地域の人とともに生きる一主体として、地域や地域での生活に愛着を持てるような指導を期待する。自分たちの住む地域の自然的・社会的環境のあるべき姿を大人と共に考え発信したり、世界遺産や豊かな自然環境を守るための日々の生活の営み方を実践的に学んだりすることができるよう、今後も支援願いたい。

また、これらのコミュニティ・スクールでの学習活動にESDの視点を取り入れることを提案する。教科横断的な学びは児童・生徒にとって、多角的に持続可能な地域の生活について考える場になると考える。

【事業11) 施設・設備の維持管理】

学習環境の整備、施設設備の老朽化改善などが積極的に行われている。今後、これらの施設改修において、バリアフリー及びユニバーサルデザインの視点を取り入れていただきたい。心身の障がい、セクシュアルマイノリティ、乳幼児、高齢者など、広く地域の人との交流をする場にもなる学校を、様々な人が使いやすい環境にすることはコミュニティ・スクールとしての効果を高める可能性がある。さらに、児童・生徒にとって身近な校舎が、誰にとっても過ごしやすい環境とは何かを批判的に考えさせるための良い教材になると考える。

また、今年度は災害級の猛暑であり、様々な自治体で教室のエアコン設置が求められ、検討されていた。児童・生徒の健康上の安全を守るうえで、必要な施設・設備であると考え。一方でエアコンのみに頼るのではなく、涼しく・暖かく過ごすための工夫を実践できるよう児童・生徒と共に学ぶことも、持続可能な環境を作り上げていくためには必要である。

【事業15) 郷育カレッジと学校との連携】

福津市の「郷育カレッジ」では、ジェンダーや地域の文化・遺産、自然環境の保護、食育、健康、等、多岐にわたるテーマの講座が展開されており、社会教育としての非常に意義深いものである。また、学校教育との連携も、実際に児童や生徒が運営側として参加し、社会参加の場にもなっている点が、児童・生徒の学習意欲の向上にもつながっていると考えられる。

さらに、この事業を豊かにする視点として、2つの視点を加えていただきたい。

まずは、地元の産業についての理解を促す学習プログラムの追加である。既存のプログラムにある「藍の家」での藍染め体験のように、地元にある産業や、近隣の商店街、あるいは市場（漁業、農業）等、地域の経済についての視点を加えることが望ましい。それぞれの産業がどのような工夫をして、福津の経済を支えているのか、支えてきたのかを知ることは、AIなどの情報技術の発展の中で働き方を問われている、次の世代へ持続可能な働き方の提案につながると考える。

次の視点として、消費者教育の充実である。消費者問題の手口についての講座を相談員の方が実施されている。しかし、平成24年に施行された「消費者教育の推進に係る法律」では自らの消費行動が将来の世代、内外の社会経済情勢及び地球環境に与える影響を自覚し、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する消費者市民の育成が求められている。例えば、地域の消費生活センター、生活協同組合や、商工会、農業・漁業関係者などと共に、福津の経済と自然環境を元気づける消費とは何かを考えるワークショップ型の講座等の設置が効果的であると考え。日々の買い物という身近な行動が産業や自然環境に影響を与えているという視点と、郷土愛をはぐくむ視点との親和性は高いと考える。さらに、この講座にも地元の小学校・中学校から、児童・生徒に参加してほしい。新学習指導要領では、家庭科において、消費生活に関する学習内容が追加されている。机上での学びではなく、実践的にすべき行動を子どもと大人が目線から検討する機会を作してほしい。

これらの視点は、2030アジェンダの中で中核をなす、持続可能な開発目標(SDGs)と関連している。(今回関連するターゲットは以下のとおり、ゴール8雇用、ゴール11安全な都市、ゴール12持続可能な生産、ゴール15生態系・森林)今後の講座において、SDGsとの関連性を提示することで、広く一般市民に向けてSDGsの存在を周知し、持続可能な社会とは何か、そのために自分は、地域は何ができるかを問いかける契機となることが期待できる。

【事業20）アンビシャス広場の支援】

アンビシャス広場における学習活動の実施方法、体験活動の情報交換・情報共有の場が少ないという課題が提案されていたが、事業15)の郷育カレッジと関連付けてはどうか。具体的には市民と利用者と、管理者が集い、具体的な体験活動を提案するプログラムである。体験活動を意義深いものにするためには、市内の活用できる施設や人材、自然環境、遊びから子どもたちが何を学ぶことができるか等について知らなくてはならない。それらの知見を活かして、アンビシャス広場の豊かな体験を提案するコーディネーターの育成につながれば効率的な人材育成が可能であると考え。

【事業24）文化芸術活動の充実】

世界遺産登録を通して、様々な事業が展開されている一方で、地域の観光資源としての今後の活用を継続的に検討していく必要があると考えた。

特に、訪問・観光のしやすさという観点から、交通手段や宿泊施設、トイレなどの配慮を要する場面は多いと考える。例えば、乳幼児を連れた観光者への授乳施設やおむつ替えの空間、車いすや身体の補助器具を用いた人のためのトイレ、耳や目の不自由な方への案内、宗教上、礼拝などに必要な空間の確保などが挙げられる。子どもの総数よりもペットの総数が多い現代において、ペット同伴の観光客をどのように招くかも検討すべき材料になると考える。

また、これらの施設を公的に充実させることは災害が発生した際のライフラインにもなる。今後の観光地としての活用をより有意義にするという観点からも検討願いたい。